

## KYT教材シートの作り方

1. 「ある状態・状況」を示すイラストを描いてください。写真や動画・ビデオ映像でも結構です。音声テープでもかまいません。これらをまとめて仮に「KYTシート」と呼ぶことにしましょう。

「状況設定」に、イラストに描けない参考事項を記載してください。たとえば、「季節は夏、朝の9時」、「開腹手術後2日目」「新人ナースと1年目の研修医師による包交」など。

2. <危険ストーリー> そこに描かれた状態・状況について、どんな危険要因が潜んでいるかを、具体的な例を挙げて示してください。「あることがどうして、どういうことになる」というように、危険なことが起きる場合を想定したストーリーで説明してください。たとえば、「～なので～する」、「～なので～が起きる」、「～して～する」などです。これを<危険ストーリー>または<ヒヤリハット・ストーリー>と呼ぶことにします。

(例) 「視力の落ちた患者さんが通りかかって、廊下に置かれた車椅子につまずく」

「患者さんがナース・コールを押そうとして腕を伸ばすので、点滴ラインが伸びきってしまい接続が外れる。」

「誰かが窓を開けたので書類の上から2枚分が風に吹かれて机の横に落ちてしまった。」

「塩化ナトリウムは生食(生理食塩水)だと思っている研修医が、生食のつもりで10%NaClを持ってゆく。」

など。

このイラスト(写真ほか)を通じて理解させたい<危険ストーリー>を、気づいてほしい例の数だけ挙げてください。

3. <このKYTシートを使って教えること> このKYTシートを使って教えたいこと(気づかせたいこと、知ってほしいこと)を、箇条書きで記載してください。このKYTシートを使ってトレーニングする人が手引き(指導要領)として利用できるように、わかりやすく書いてください。内容は、ある状態の特徴でも、対策案でも、考慮すべき外部作用でも、何でもかまいません。

### 4. <応募される方のお名前と連絡先>

- (1) 応募される方の、氏名、年齢、所属、職名、職種。

チームで応募される場合は、チーム名、代表者の氏名、年齢、所属、職名、職種、をお書きください。

- (2) 応募される方またはチーム代表者の連絡先住所(〒番号も)、電話番号、e-mailアドレス(またはFAX番号)。

\* 応募される方は、医療機関(病院または診療所)に勤務する方であれば、職種や勤務部署を問いません。医師、看護師、薬剤部、給食、事務、受付、など、それぞれの部署の業務に関係する例を挙げてください。

## KYT教材シート作成のコツ

- 経験豊かなスタッフなら誰でも、「こんなことが」というような出来事をいくつも体験あるいは見聞しています。経験豊かなスタッフがそういった危険を新人にわかってほしいと思う気持ちで考えてみてください。これまでに集まっているヒヤリハット報告を見直すことも大変参考になります。
- 「危険」がすでに見えている場面ではなく、そこに何かの変化や作用、行為などが加わると危険が発生するような場面を考えてください。
- 「変化」が起きたり「作用」をもたらすものとして、患者さん、家族、スタッフ、病気・病状、環境、位置、設備・機器、薬、用具、人、音、色、明かり、処置、書式、掲示などを考えてみてください。

参考（運送会社の事例）：<http://www.marukai-web.jp/company/safety/index.htm>

参考（自動車運転の場合）<http://www.jafmate.co.jp/>

JAF 会員の方は 会報（JAF メイト）の目次下に記載されているパスワードを入力するとバックナンバーをホームページで閲覧できます。このなかで、JAF メイトに連載している「危険予知」シリーズの写真や説明を見ることができます。

## 危険予知トレーニング(KYT)とは

医療現場の状態や作業の状況を描いた KYT 教材シート(イラストや写真、ビデオ、動画、音声も可)を使って、医療現場の状態や作業行為に潜在している危険(エラーや事故が起きる可能性)を予測する練習のことで、この練習を重ねることで、まだ起きていないエラーや事故の可能性を察知し事前に防止する手立てを講じられる能力を身につけることをねらいにしています。

エラーや事故は誰かが引き起こすというよりも、ある状態や状況とある行為や出来事が互いに作用して起きるものです。一見何事もなく平穏に経過しそうに見える風景でも、そこになんらかの変化や作用が加わることでエラーや事故を誘発する要因が現れます。

危険を予知し危険をもたらす要因を見つけだす能力は、

作業の流れや起こりうる変化についての幅広い経験や理解、

ある状態や作業がもつ特徴やリスクに関する確かな知識あるいは洞察力、そして

豊かな想像力、

に支えられます。

危険を予知する力を備えた人やヒヤリハットを経験した人にとってはいかにも当然な危険防止の配慮や工夫も、まだ経験が浅く危険の存在が理解できない人にとっては、ただの「ムダな作業」としか見えません。忙しい職場では「たいていは大丈夫」「いままではこれで何も起きなかった」という行動規範が一般化しているために、実際に問題が発生するまでは具体的な防止策がとられず、結果的に、患者さんの被害によって危険予知能力を育ててもらっている、というのが実態です。

危険予知トレーニング(KYT)では、個々の事例ごとの危険要因や対策を学ぶというよりも、危険が潜んでいることに自ら気づくようになること、が重要です。KYT訓練者は「気づき」を援けるファシリテーターの役割を果たします。危険予知訓練は5~6人くらいのチームで実施すると効果的です。

危険予知能力が育てば、各自の持ち場や日々の業務の中で、危険要因に配慮した仕事のやり方や事故防止策を自然に行えるようになります。また、日常業務のポイント、ポイントで(たとえば毎日の送り時や回診時、新しい治療法や医療機器を使い始めるとき、などに)、短時間の危険予知ミーティングを励行することが推奨されます。

## 参考:「KYT4ラウンド法」

危険予知トレーニングに役立つ手順に、「KYT4ラウンド法」というのがあります(中央労働災害防止協会)。これは、5～6人くらいの受講者を対象に、ある教材シート(\*)に描かれた状態・状況について次の4つの質問を順に投げかけ、みんなで考えを出し合って、危険予知から対策までを話し合うというものです。いろんな状況設定についてこれを繰り返し、訓練者が参考になる見方を例示しながら考え方の筋道を教えることで、危険を察知するコツを身につけます。\* イラストのほか、写真、ビデオ、動画、音声でもよいし、実際の現場を見せたり、現物を示したり、作業をやってみる、でもかまいません。

### (1) 危険の予知 「どんな危険がひそんでいるか？」

みんなの話し合いで危険要因(事故を引き起こす可能性がある状況や行為、出来事＝潜在的な事故原因)を発見し、それによって引き起こされる現象や事態を想定する。想定される危険をできるだけ列挙し、危険要因と起こりうる事象をつないで次のように表現する;「～なので～する」、「～なので～が起きる」、「～して～する」など。

### (2) 重点化 「これが危険のポイントだ」

上記のうち、危険事態が発生する確率や、確率は小さくてもそれが起きた場合の事態の深刻さなどを考慮して、重要と思われる危険と危険要因に 印をつける。また、とくに重要と考える危険と危険要因(通常2～3項目を選ぶ)には 印をつけ、危険を招くポイントにアンダーラインを引く。

### (3) 対策 「あなたならどうする」

重要と判断した危険要因に対して、危険が現実のものにならないようにするためにどうすればよいかを考えて具体的な予防策を検討する。

### (4) 安全目標 「私達はこうする」

上記の安全対策のうち現実的で実効性のあるものを選び、同様の状況や作業における行動規範(安全のコツ、安全目標＝安全のための行動目標)として標準化する。

KYTで危険予知能力を磨いたら、診療や看護その他実際の作業の場でこれを生かします。日々の業務の中で、定期的に、あるいは必要なときに随時、短時間の危険予知ミーティングを持ちます。SKYT(簡略ワンポイントKYT)は、これから行う作業に際して(1)と(2)のステップをごく短時間でみんなで行って危険要因の理解を共有したのち、危険ポイントを最重要事項に絞込み、(3)のステップを省略して(4)でリーダーが適切な安全対策を指示します。(中央労働災害防止協会) これはリーダーの訓練にも役立ちます。

## 参考書

中央労働災害防止協会刊 「KYT4ラウンド法イラスト・シート集」、「短時間KYTイラスト・シート集」